

研修報告書

令和6年2月27日

長浜市議会議長 中川 勇 様

長浜市議会議員 松本長治

私が出席した次の研修視察の結果について報告します。

記

1. 研修等名 令和5年度 会派視察研修
2. 研修期間 令和6年2月20日(火)～2月21日(水)
3. 研修場所及び目的
「自然災害に対する自治体の備えと補助について」衆議院会館
「勉強カフェについて」 仙台市
「東日本大震災から学ぶべきことについて」 双葉町
4. 調査内容感想等
・研修の目的

【内閣府・消防庁】

災害時の避難所のあり方と、防災・減災対策に関わる国の考え方をお聞きし、今後の市の対策に活かしたい。

【勉強カフェ】

大人が思いっきり勉強できる場所。そういった空間を提供されているスタジオを見学させていただき、長浜の空きスペースの活用に活かしたい。

【福島県 双葉町】

大地震による津波や原子力発電所の事故など、複合災害に見舞われた双葉町。発災時から今まで、そしてこれからの町の進むべき方向性について、どのように考えておられるのか。また、これまでを振り返り、災害への備えについて、あるべき姿をどのように検証されているのかをお聞きし、今後の長浜市の災害への備えに活かしたい。

長 浜 市 議 会

・研修内容

【内閣府・消防庁】

市町村が、行うべき災害応急対策を迅速かつ的確に行う責任がある。市長村長は全庁的な災害対応体制を確立し、災害のフェーズに応じた的確な判断・指示を行う必要がある。と言われている。このことはそれぞれの自治体にとって、非常に大きな意味を持つ言葉だと思います。

これだけ大きな責任を、全国の市町村に求めると同時に、そのための能力強化のための研修をされ（災害を経験された首長の講演など）、事例集・危機管理の要諦を作成し、市町村長に配布されています。

また、さまざまな防災に関わる対策を行う場合の財政措置について、指定避難所の防災機能の強化や資器材整備、拠点避難地の整備、避難路や避難階段、防災行政無線整備などについて、それぞれ詳しく説明をしていただきました。

避難所のあり方について、近年の災害から学ぶ上で、特に女性や子ども、高齢者やしょうがい者等への配慮が、さまざま細かな部分までよく検討され、整備に盛り込まれていると理解いたしました。

【勉強カフェ】

ありそうでなかった、大人のための勉強場所、それが「勉強カフェ」です。

周りを気にせず勉強できる環境。また、大人の学びは勉強だけではないとの考えから、店内にノイズを流しておられることや、同じ勉強をされている人と知り合いになることや、自分の興味のあるイベントに参加できるなど、さまざまな仕掛けを考えておられます。

利用される方の利用プランは多様で、個々の生活スタイルなどにより自分に合ったプランを選択できることや、飲食や会話も可能なスペースも設けられていることから、他にはない魅力を感じました。

勉強カフェは、自分の特別な居場所のひとつ、といった意味合いが大きいのではないかと感じました。

【福島県 双葉町】

東日本大震災・津波・原発事故と双葉町がこれまで歩いて来られた道のりは、非常に厳しいものであったことを考えれば、当時から双葉町の皆さんと関わりをもたせていただいた者の一人として、この12年の経過と今回、あらためてこの町に来られたことをうれしく、また感慨深く感じます。

双葉町の現状は、町面積の約15%が生活できる区域になっていますが、町は双葉駅を中心とした賑わいづくり、基幹産業である農業の再生、町民も来訪者も楽しめる海沿いのアクティビティエリアの復活等、さまざまな取り組みがされています。

特に、なりわいづくりとして、企業立地・事業再開を推進されていて、現在23社（27）社の立地が決定されているとのこと。また、農業再開と新興については、除染後の農地の保全管理を地元農業者中心に実施していただき、新

